

# 「こどもたちに健やかな育ちを」



## こどもパレード開催!

11月10日(日)パレード・集会の様子

11月10日(日)、「こどもたちに健やかな育ちを」のスローガンのもと、こどもパレードが開催され、保育・児童保育・児童館・療育・放課後デイ・教育・給食に関わる団体から400名超の参加がありました。

### 荒馬踊りで元気にスタート!

私立保育園職員による荒馬踊りを先頭にお囃子のリズムに合わせて「ラッセルー!」と声を上げながらスタート。公立・民間の保育園職員・保護者は「保育士を増やして」「公立保育園を減らさないで」と道行く人々にアピールしました。カエルやネコバスも登場し、笑顔で手を振る親子連れの姿もありました。

### 「子育てしやすい広島」を求める

アリスガーデンでの集会では各団体の報告。広島市給食調理員協議会は安全・安心でおいしい給食を子どもたちに提供していること、子どもと作り手の顔が見える自校調理場を残

していく大切さをアピール。保育園支部からは公立保育園の欠員状況や八幡東保育園の廃園方針の問題等を参加者に報告。留守家庭労組と児童館労組は欠員の上増設、有料化されても施設の改修が進んでいないことなどを訴えました。



「こどもたちに健やかな育ちを」を合言葉に、さまざまな団体と手をつなぎ活動していきます。



### 第33回

## 自治体保育労働者の全国集会in広島に向けて

### ～⑥ 全国集会に向けて、仲間とともに～

先月、大会オープニングで歌う「アオギリのうた」の合唱練習に、広島市職労保育園支部のなかまが集まりました。冒頭、畑野支部長が被爆80周年の年に広島で大会が行われることや被団協のノーベル平和賞受賞について触れ「日頃の保育で大切にしていることを伝えていきましょう」と挨拶しました。

2月15, 16日は是非、広島国際会議場にお越しください。

りました。また、先日、全国実行委員と広島現地実行委員の合同会議や会場下見を行いました。当日をイメージしながら各係で参加者の動線や準備物を確認し合い、当日に向けて本格的に動き始めました。

## 「第69回はたらく女性の中央集会in岩手」開催!

### 軍拡・増税はNo! 平和憲法を生かしジェンダー平等&公平な社会実現を

11月16日(土)～17日(日)、第69回はたらく女性の中央集会in岩手が「軍事拡大・増税No! 平和憲法生かし、いのち・くらし・人権を守ろう!」ジェンダー平等と公平な社会の実現を「のスローガンのもと開催されました。

記念講演ではフリーランスのライター、和田静香さんが「私たちが安心して暮らすために考えた身近な政治」と題し、選挙に行っていない約半数の人に政治を知って選挙に行ってほしい、労組はわかりやすいことばで語り合う場を作ってほしい、と呼びかけました。分科会「ジェンダーの視点から防災を考える」では、助言者の宗片恵美子さん(特定非営利活動法

広島自治労連会議室で視聴する参加者



人が防災の支援者になれること、若者のリターンシップを発揮できる自治体へ取り組むこと、求められま

人イコールネット仙台常務理事)が、阪神大震災後の災害時における女性のニーズ調査に見えた不安が、東日本大震災発生時の避難所・仮設住宅にて、女性たちの不安・心配として現実的なものになったと指摘。被災者であっても一人一人が



# “だれも置き去りにしないで”

## ～公共交通機関の役割と「パスピー廃止」問題～

広島地域でバス・電車・アストラムラインなど、公共交通機関で利用できるICカード「パスピー」が令和7年3月29日で廃止されます。市民生活にとって身近で切実な問題ですが、丁寧に説明されていないように思います。

### バス会社の違いで2つに分かれる！

パスピーは公共交通機関で乗車できる共通性と10%割引がありますが、パスピー廃止後、広電系列（広電、芸陽バス、ボンバス、備北交通）とそれ以外（広島バス、広島交通、JRバス）の2つに分かれます。

廃止強行の背景は、パスピー導入15年経過で、機械の老朽化による更新が何億円の単位で必要になることがあり、国土交通省からの補助金は新システム導入には付

きますが、維持補修には補助が付きません。

そのため広電は、スマホ使用の「QRコード決済によるモビリーデバイス」導入の方針、パスピー利用を来年3月29日までと決定。広電は他のバス会社にもモビリーデバイス導入を呼びかけましたが、他社はJRとの連携を重視する等の理由で当面参加せず、足並みが揃いません。

### 社会的弱者が置き去り

広電が強行するモビリーデバイスは、基本的にスマホでのチャージや支払いを可とし、その利便性を強調しますが、全国民の2割は現在もスマホ不保持。この制度から置き去りにされる恐れがあります。

また、高齢者や障害者で車の運転ができない方は、パスピーで安心して公共交通利用していますが、会社により乗

り方が異なると不安になります。すべての人が安心して利用できることが、公共交通機関の役割です。

### 運動が広電を動かす

そのような中、11月23日「広島の公共交通の利便性を守る会」を結成。会は以前からパスピー廃止後も利便性が損なわれないよう声をあげており、この運動が広電を動かす、記者発表となりました。

①モビリーデバイスカードの現金チャージが車内でできるようになります。

②広電系列のモビリーデバイスの読み取り機に、イコカでもタッチするだけで払えるようになります。（2点とも実施時期未定）

職場に「広島の公共交通の利便性を守る署名」をお届けしていますので、公共交通の果たす役割を求め、署名へのご協力をお願いいたします。

# 取材でみえた「現在進行形の核被害者」

12月1日（日）、広島県原水協はジャーナリストの小山美砂さんを講師に、「アフガンスタン」に行つて聞いた核被害者の叫びの講演会を開催、県内から60名が参加しました。

### 住民に一切知らせず456回にも及ぶ核実験

小山さんは9月にカザフスタンを訪れ、セミパラチンスク核実験場などをつぶさに見て回った様子を報告。1949年から1989年まで456回以上の核実験が行われま

### 自らの存在を隠すように生きる核被害者

74歳の女性は子どもの頃から首の骨が痛いなど体調不良が続き、薬代が大変高額なので援助を訴えていること、この女性の話では、60代まで生きる人が少ないこと、「被爆者手帳」のようなものが交付されているが、医療支援は乏

しか多くの病気を発症していること等を報告しました。さらに、障がい者差別がまだ根強く残っており、核実験の影響で障がいを持って生まれた人はその存在を隠すようにしている、カザフとその住民に目を向けてほしいと要請された、私たちにできることは何かを考えていこうと呼びかけました。



ジャーナリスト 小山美砂さん

# 「核兵器は廃絶するしかない」

## ～市民の思いを強めるような街づくりを～

広島自治労連は被爆地ヒロシマの公務公共労働者の組合として「核兵器廃絶」の声を労働組合や民主団体とともに広げています。

その立場で11月27日、広島市に対してノーベル平和賞受賞を機に広島市民がこれまで以上に、核兵器と人類は共存しえないこと、未来を奪うので廃絶するしかない、との思いを広げていくような街づくりを求め、広島市役所や各区役所、公共施設に祝意を示す「たれ幕」等の掲示を要請しました。

当局からは平和推進課の松田課長をはじめ3名に対応いただきました。

松田課長は、広島市としても嬉しいことであるが「たれ

幕」等の掲示は考えていないこと、12月10日の授賞式を祝うパブリックビューイングや被爆80年に向けての取り組みを準備していると回答しました。

長崎市は受賞から早々に市庁舎や原爆資料館に掲示をしていただけに残念に思いましたが、広島市でも12月3日以降、市役所他で祝意の張り紙がされているのを確認しました。

核兵器廃絶を理想ではなく現実のものにするよう、引き続き運動を続けていきます。



写真右：松田課長、左：浜崎書記長

### 市労組みよし定期大会



# 積み重なる強いきずなと団結

## 市町村合併により君田村職労から改組、20年

11月23日（土・祝）市労組みよし定期大会を開催しました。大会の冒頭、大谷真弘執行委員長は「世界ではロシアとウクライナの戦争が長期化、国内では石破政権が発足するも過半数割れで国内外ともに混沌とした情勢が続いている。働く者の権利を確立し、平和と安定の社会を構築しよう」と挨拶しました。

市労組みよしは2004年の市町村合併により君田村職労から市労組みよしに改組し、20年を迎えました。組合員数は少ないですが強いきずなと団結で、また1年1年、積み重ねていきます。

### ■被災71年3・1ピキニデー広島集会■

2025年2月22日（土）14時～広島市中区地域福祉センター

